

【JCAABE 一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構 第 9 期総会 議事録】

■日時:2026 年 10 月 2 日 18:30~19:00

出席者はオンライン出席を含め 95 名。会員 162 名の過半数を満たし、総会は成立した。
連代表理事、大月事務局長ほかが出席した。

●第 1 号議案 第 9 期事業報告

連代表理事から、第 9 期の主な活動として、「実装タスクフォースによる発注者支援活動」「まちづくりファシリテーター養成講座」「建築まちづくりコンクール」等について報告があった。

成岡実装タスクフォース委員長からは、副委員長の片山氏をはじめとするメンバーで活動し、自治体等の発注者を支援することを JCAABE の新たな役割として位置づけ、これまで約 6 回の検討を行った旨の報告があった。

連代表理事から、検討の成果物として支援内容を整理したパンフレットを作成し、発注者支援については、建築企画相談、ブリーフ作成支援、ワークショップ、まちづくり条例、まちづくりファシリテーター、研修・講演会、見学会等を含む 9 つの活動として整理した。今後、自治体等への周知を進め、具体的な支援事業につなげていく旨の報告があった。今後、JCAABE を「良質な建築・美しいまちづくりを目指す団体」として、発注者支援、コンペ・プロポーザル支援、建築トラブル解決の ADR 推薦等を積極的に PR していくとの説明があった。

さらに、機関誌「公共建築」の寄稿において、公共施設整備におけるファシリテーターの重要性や養成講座の活動が紹介された旨の報告があった。

松村副代表理事からは「まちづくりファシリテーター養成講座」について報告があり、70 名を超える学生が受講しているほか、社会人も受講できるオンライン講座、経験に応じた科目免除、集中講座等を実施していることが紹介された。

建築まちづくりコンクールについては 18 件の応募があり、学生部門は 28 件。「日常と非常時をつなぐ」をテーマに、防災活動と日常のまちづくりの連携を重視した内容として、東京 TONKAN との協働により実施した。

また、今期実施したリレートークを担当した、慶野氏からは栃木県「吉田村ビレッジ」、伊良波氏からは「首里のまちづくり」および NPO 法人首里まちづくり研究会の活動が紹介された。

●第 2 号議案 第 9 期決算報告

連代表理事から、決算報告が行われた。会費収入は減少傾向にある一方、建築まちづくりコンクールの実施に伴う新たな支出が発生しており、今後約 130 万円の支出が見込まれるとの説明があった。

向田監事から事業及び会計処理が適正に行われている旨の監査報告があった。

●第3号議案 次期事業計画

連代表理事から、次期の主な事業として、以下の活動を推進する方針が示された。

- JCAABE 発注者支援活動の広報・実施
- 認定まちづくり適正建築士セミナー
- 登録まちづくりファシリテーター制度
- JIA 建築家大会でのオンライン講演
- JIA 建築まちづくり委員会との連携、まち歩き等

発注者支援については、作成したリーフレット等を活用し、各自治体への働きかけを全国的に進める方針が示された。

●第4号議案 今年度の体制と活動

連代表理事から、今年度の組織体制および活動について説明があり、新任として東北支部長を松本純一郎氏から福士美奈子氏、関東甲信越支部長を連健夫から慶野正司氏となったことが報告された。

また、JCAABE 創立10周年記念行事を2027年7月に開催する方向で準備会を設置することが示された。10周年を機に、JCAABE の認知度向上、資格制度、セミナー、発注者支援事業等を広くアピールしていく方針が示された。

第1号から第4号までの各議案は、それぞれ承認された。

以上。

議録担当 片山 耕治 2026年10月6日

以上の議事録は、事実と相違ありません。

2026年10月9日

議事録署名人

連健夫

大川直治

